

鈴鹿川直轄河川改修事業

説明資料

平成26年10月30日

国土交通省 中部地方整備局
三重河川国道事務所

目次

1. 事業の概要	
1) 流域の概要	1
2) 主要洪水	2
3) 事業の目的及び計画内容	3
2. 評価の視点	
事業の必要性等に関する視点	
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	4
2) 事業の投資効果	5
3) 事業の進捗状況	6
3. 県への意見聴取結果	7
4. 対応方針（案）	7

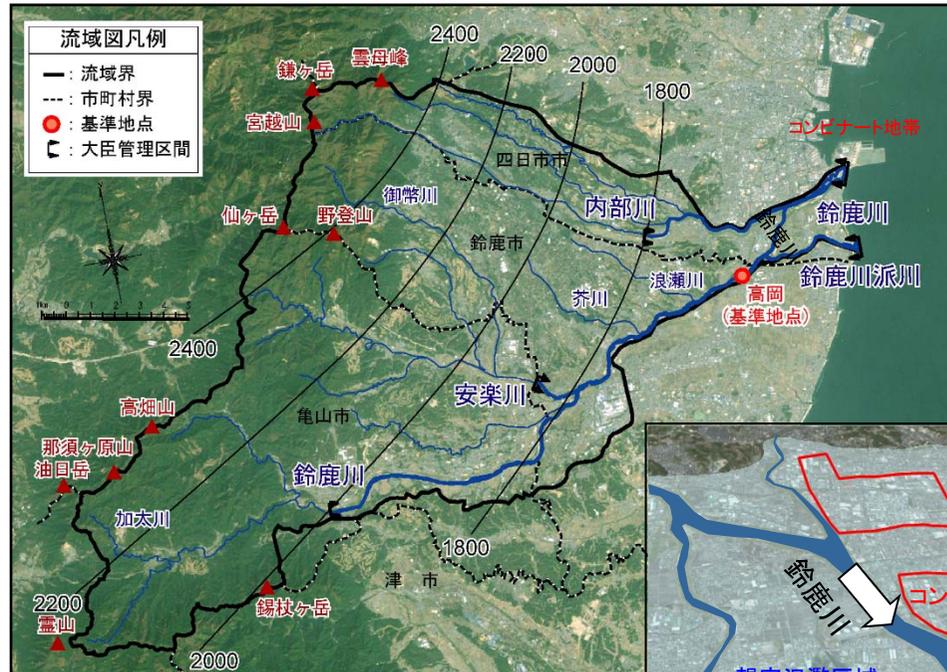
1. 事業の概要

1) 流域の概要

鈴鹿川はその源を三重県亀山市と滋賀県甲賀市の県境に位置する高畑山(標高773m)に発し、加太川を合わせ、亀山市を経て鈴鹿市に入り、安楽川などの支川を合わせ、平野部を流れて、鈴鹿川派川を分派し、四日市市において、内部川を合わせ伊勢湾に注ぐ幹川延長38km、流域面積323km²の一級河川です。

流域の平均年間降水量は、山間部で2,200mm以上、平野部で約1,800mm~2,000mmとなっています。

四日市市には臨海部に広がる石油化学コンビナート地帯をはじめとした産業が発達し、鈴鹿市では自動車産業、亀山市では電子部品を中心とした工業が発達しています。



流域図及び年間降雨量分布図



鈴鹿川下流部に広がるコンビナート地帯

項目	諸元
幹川流路延長	38.0km
流域面積	323km ²
流域関連市	四日市市、鈴鹿市、亀山市
流域内人口	約11万人

2) 主要洪水

鈴鹿川においては、戦後最大洪水である昭和49年7月豪雨により、安楽川合流点付近等での破堤氾濫等が生じました。近年では平成24年9月の豪雨・台風により、鈴鹿市庄野羽山地先(右岸14.0k付近)等での内水による浸水被害等が生じました。

主要洪水一覧

発生年月	発生原因	洪水流量※1 (高岡地点)	浸水面積※2	浸水家屋※2		
				床上	床下	全壊流出
昭和13年 8月	低気圧・前線	2,300 m ³ /s	詳細不明	不明	不明	6棟
昭和34年 9月	伊勢湾台風	950 m ³ /s	詳細不明	15,128棟	3,119棟	1,250棟
昭和46年 8月	台風23号・集中豪雨	2,100 m ³ /s	2,285ha	161棟	1,796棟	—
昭和49年 7月	集中豪雨	3,200 m ³ /s	7,551ha	1,147棟	3,737棟	7棟
平成 7年 5月	集中豪雨	2,000 m ³ /s	2ha	2棟	18棟	—
平成24年 9月	台風17号	1,900 m ³ /s	2ha	24棟	139棟	—

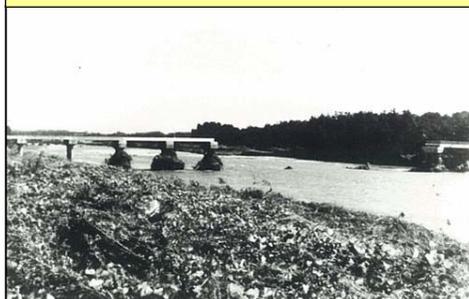
※1:流量は氾濫がないとした場合の計算値

※2:浸水面積及び被害の出典は、昭和45年以降は水害統計より集計、それ以前は「三重四国治水史」より集計

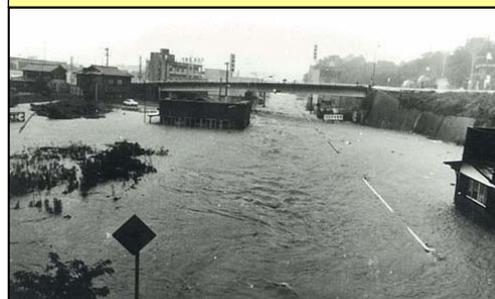
昭和34年9月洪水 高潮堤防被災
(鈴鹿川河口部)



昭和46年8月洪水 橋梁流出
(鈴鹿川23.4k付近:野村橋)



昭和49年7月洪水 浸水状況
(亀山市駅前)



平成24年9月洪水 出水状況
(内部川 河原田観測所)



3) 事業の目的及び計画内容

「鈴鹿川水系河川整備基本方針(平成20年6月策定)」で定めた目標に向け、段階的かつ着実に整備を進め、災害に対する安全性の向上を図ることとしていますが、現在想定している概ね30年間の主な整備内容は下記のとおりです。

概ね30年間の主な整備内容(予定)

【洪水対策】

戦後最大規模相当の洪水(昭和49年7月洪水)に対し、安全性の向上を図るため、段階的に堤防整備、河道掘削及び樹木伐採、横断工作物改築等を行います

【高潮対策】

伊勢湾台風相当の高潮に対し、高さ・断面が不足するとともに老朽化が著しい高潮堤防の整備を完了します

【耐震対策】

東南海・南海地震等に対し、河川管理施設の機能維持を図るため、耐震対策を行います

目的	整備内容	
洪水対策	堤防整備・堤防強化 (護岸整備等含む)	約5.3km
	河道掘削 (樹木伐採含む)	約235万m ³
	横断工作物改築	5箇所: 鈴鹿川 3箇所: 鈴鹿川派川 2箇所: 内部川
高潮対策	高潮堤防整備	約2km

※堤防強化には、浸透対策、耐震対策を含む

※現在、河川整備計画策定中であり、上記の整備内容及び整備区間については、今後変更されることがあります。



概ね30年間の主な整備区間(予定)

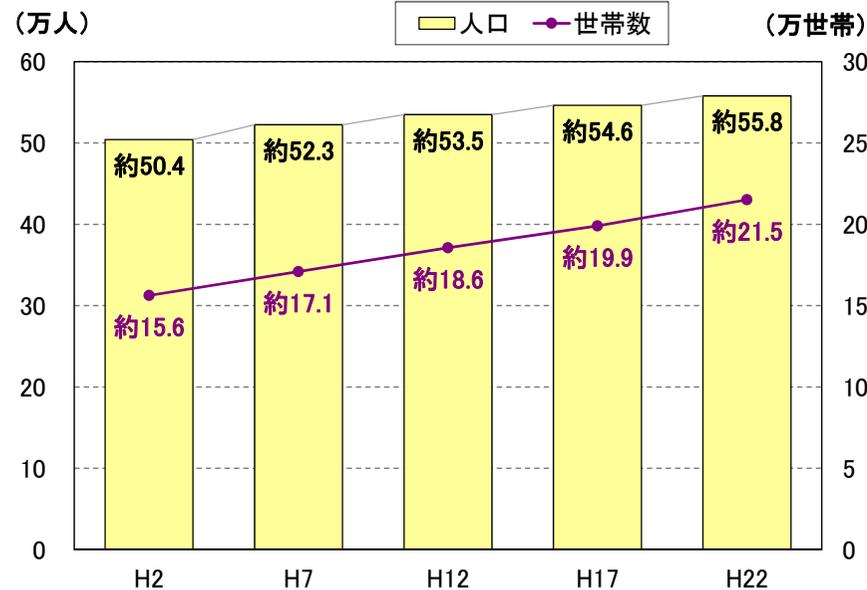
2. 評価の視点

事業の必要性等に関する視点

1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域市町人口・地域開発の状況

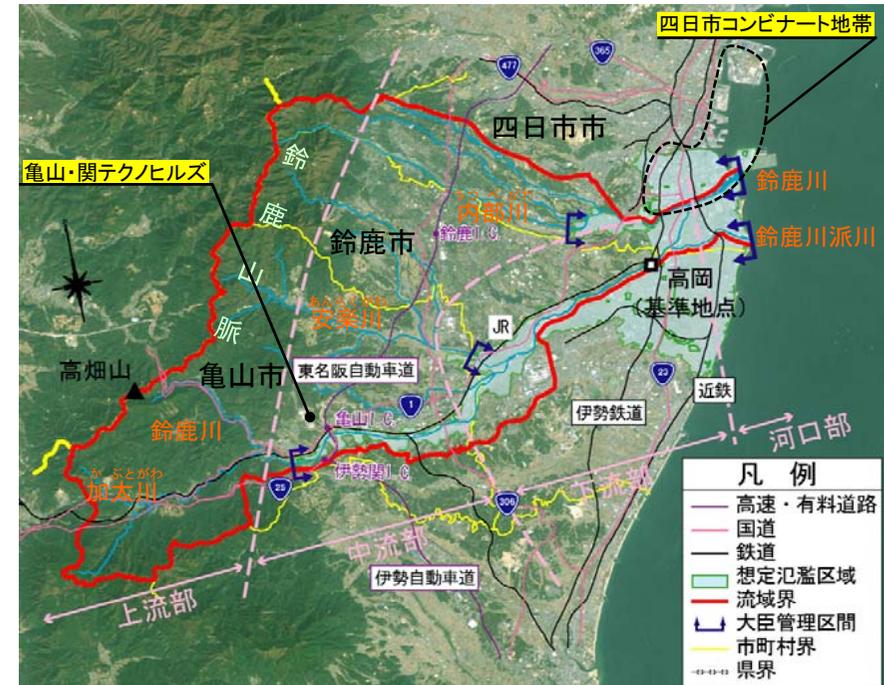
- ・近年、鈴鹿川流域市町の人口・世帯数は増加傾向にあります。
- ・四日市市には石油化学コンビナートが、鈴鹿市には自動車製造工場、亀山市には電子部品製造工場が立地し、今後も発展が期待されている地域です。



関連市町の人口・世帯数の変遷

※四日市市(旧楠町含む)、鈴鹿市、亀山市(旧関町含む)の合計

出典:国勢調査



四日市市の石油化学コンビナート地帯



亀山・関テクノヒルズ

流域周辺の主要産業立地状況

2) 事業の投資効果

現況河道において、目標とする規模の洪水(昭和49年7月洪水)が発生し、鈴鹿川が氾濫した場合に想定される被害は、浸水面積 約 5,300ha、浸水人口 約 68,000人、浸水家屋数 約 24,000世帯 であり、整備を実施することで氾濫被害が軽減されます。



3) 事業進捗状況

前回評価時(平成23年度)以降、主に高潮堤防整備、堤防整備、護岸整備を実施しています。

目的	整備項目	全体 (A)	H26年度末完成 (予定) (B)	整備率 (B/A)
洪水対策	堤防整備・堤防強化 (護岸整備等含む)	約5.3km	約4.0km	75%
	河道掘削 (樹木伐採含む)	約235万m ³	約0万m ³	0%
	横断工作物改築	5箇所: 鈴鹿川 3箇所: 鈴鹿川派川 2箇所: 内部川	0箇所	0%
高潮対策	高潮堤防整備	約2km	約1.3km	65%



前回評価時以降の事業実施区間 (H24年度完成事業～H26年度末予定事業)



堤防整備(鈴鹿川左岸2.2k付近)



高潮堤防整備(鈴鹿川左岸0.8k付近)

3. 県への意見聴取結果

三重県	本事業は、三重県の産業集積地帯を下流にもつ河川の治水安全度向上及び、南海トラフ地震による地震・津波被害を軽減するために重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、河川整備計画の早期策定と効率的な事業執行により、更なるコスト縮減をお願いします。
-----	---

4. 対応方針（原案）

以上のことから、鈴鹿川水系河川整備基本方針に基づく河川改修事業を継続します。